

第八回留学報告書

河野遥希

2025年2月3日

MITの経済学部 PhD プログラムに所属しております、河野遥希です。遅くなりましたが、2024年後半の活動をご報告いたします。

1 研究・TA

Second year paper として書いた、セミパラメトリックモデルの効率性限界についての論文は、*Biometrika* という統計学の雑誌に無事アクセプトされました。この論文は MIT に来てから書いた初めての単著で、ひとまず目に見える成果が出てホッとしています。Random utility model についての共著論文も、経済学のトップジャーナルのひとつから改訂要求をもらいました。改訂はなかなか大掛かりですが、頑張っって少しずつ進めています。また、操作変数を用いた多変量分位点モデルについての論文も夏頃に投稿しましたが、半年経っても査読が返ってきません。査読が長いということは、少なくとも一人は好意的なレフェリーがいるということなので、気長に待ちます。

新しい論文も一つ公開しました。経済学の理論では、合理的な消費者の需要関数が満たすべき性質がいくつか知られています。この論文は、そのうちの一つである Slutsky Symmetry という性質を、実際に取得できるデータから検証することができるか、ということ調べています。公開はしましたが、今後さらにブラッシュアップしていくつもりです。

幸運なことに、今年は大学のフェローシップをもらえているので、TA などの業務がありません。時間がある今のうちに、出来るだけ研究を進めようと思います。

2 その他

ゴルフに大ハマりしています。朝6時前に起きて、大学のジムにあるゴルフシュミレータで朝練しています。

PhD 生活も後半に入りましたが、お陰様で充実した研究生生活を送ることができています。深く御礼申し上げます。